

(様式4)

平成27年度 日上市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日上市立田尻小学校 係長 小川 峰子

- 1 派遣期日 平成27年10月27日(火)
- 2 研修先 学校名(会場名) 川口市川口総合文化センター リリア
所在地 埼玉県川口市川口3-1-1
- 3 研修内容 50周年記念(第47回)埼玉県学校事務研究大会
大会テーマ「CHANGE(変化)をCHANCE(機会)に!
学校事務の充実は、学びの充実 ～学校評価～」

(1) 研究発表

①「学校情報に関する調査まとめ～信頼される開かれた学校づくりのために～」

平成25年度から26年度にかけて駿河大学メディア情報学部野村正弘教授と共に
行った「学校情報に係る調査(学校長対象)」、「学校情報に係る調査(保護者対象)」の
総括発表。

この調査により、学校は多くの手段で情報を提供する「多手段提供型」、保護者は多
くの提供手段から選択して提供されることを望む「多手段選択提供型」であることがわ
かった。情報提供の手段としては文書・話し合い・参観・ウェブサイト・メール等があ
るが、情報の重要性や緊急性によって手段を選択することが効果的な情報発信といえる。

学校情報を適切に管理し、活用(発信)することで適切な学校評価を受けることがで
きるため、最適な提供手段を考えることは重要である。

②「彩の国学校事務NEXT～地域との協働による学校づくりと事務職員の役割～」

山形大会に向けての中間報告。

アンケート調査の結果、事務職員は地域と関わる仕事をする姿を描きづらい状況であ
ることがわかった。埼事研は目指す事務職員像を「学校の内外をつなぎ広げ、学校力を
高める学校運営スタッフとしての事務職員」と定めている。この事務職員像を実現する
ため、地域の学校教育を推進する事務職員の役割、外部組織との連携の在り方、必要な
能力と力量形成の在り方について検討をしているところである。

③「学校評価を活かした学校事務機能強化～高めようチーム力～」

学校事務を学校にあるすべての事務(成績処理等を含む)と捉え、その業務の効率化
を図り、つなぎ合わせることでより大きな効果を目指す。これにより学校事務の機能は
強化され、学校事務の観点から教育活動の質の向上に寄与できる。

学校評価の実施から結果の活用まで主体的にかかわり、組織の一員として業務改善
を行う事務職員となれるようにする。校内だけでなく、周囲とも連携し学校運営の改善に
取り組むことで、学校というチームの力を高めることにつながる。

(2) シンポジウム

テーマ「彩の国学校事務NEXT～次世代の学校事務を考える～」

埼玉県教育局の方や小学校長、事務職員、全国公立学事研会長など、様々な立場の
方々から次の二つの柱に沿って意見が出された。

①学校事務の役割と果たすべき機能

- ・事務職員は積極的に学校経営に参画すること。
- ・教育から一歩下がってみることが出来る立場から意見を。
- ・常に新しい情報の収集や発信をすること。
- ・自身の資質向上、心に高い志し、リーダーシップ、責任感、思いやりなどが必要。

②新しい役割と学校事務のあり方

- ・これからは学校マネジメントを担う役割である（教頭先生との役割分担や補佐）。
- ・責任、自主性、自立性、経営機能の確立、人材育成が必要。
- ・自分は関係ないと思わず、チームの一員であるという意識をもつこと。
- ・地域と共にある学校づくりへ（地域とのコーディネートをする事務）。
- ・学校教育目標をふまえて仕事をする事。

（３）記念講演

「想像力とコミュニケーション～人へのモノの伝え方」（講師 落語家 三遊亭楽生）

- ・粗言、片言、重複、小声を直すとうまく伝えることができる。
- ・声の高低や早さに注意。
- ・頭の中に絵を想像しつつ、ゴールを目指しながら話すと良い。
- ・笑顔が大事。

4 感想

今回の研究大会に参加させていただいたことで、事務職員に求められる役割について研修することができました。事務職員の立場から課題や改善策を提案し、積極的に学校経営に参画することが大切であることがわかりました。学校評価の結果から事務職員としてどのような業務改善ができるかを考え、実行していくことは簡単ではありません。具体的にどのようなことができるか、これからも研修が必要であると感じました。